

モモせん孔細菌病の防除の徹底について

岡山県病害虫防除所が6月3～4日に行った巡回調査によると、県全域でのせん孔細菌病の発生圃場率は24.3%で平年（15.4%）よりやや多く推移しています。広島地方気象台の6月4日発表の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、本病をやや助長する条件です。中国地方は6月3日ごろに梅雨入りしており（平年より4日早い）、**降雨が続くと本病の病勢が急速に進展する**可能性があるため防除を徹底してください。なお、多発してからの殺菌剤による防除は効果が低下するので、早期の防除を心がけましょう。

1. 防除対策及び防除上の参考事項

- (1) 前年秋ごろに病原菌が感染し、春頃の気温の上昇とともに形成された春型枝病斑（スプリングキャンカー）や、そこから感染した発病葉が果実への重要な伝染源となります。発病枝や発病葉は、見つけ次第除去し、処分しましょう。
- (2) 本病の発生には前年の伝染源が大きく影響するため、常発地や昨年発病を認めた圃場、枝病斑や発病葉のみられる圃場では、下記の表を参考に、降雨前の薬剤防除を心がけましょう。
- (3) 果実への感染を防止するため、早めに袋かけを行いましょ。袋かけは、薬剤散布後速やかに実施しましょう。
- (4) 病原菌は葉や果実の開口部（気孔など）や傷口から侵入するので、風当たりの強い圃場では防風ネット等の防風対策を施し、病原菌の飛散を防ぎましょう。

【収穫7日前まで使用できるモモせん孔細菌病の防除薬剤】

(H27. 6. 9現在)

薬剤名	農薬使用基準		
	希釈倍数	時期	回数
スターナ水和剤	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
バリダシン液剤5	500倍	収穫7日前まで	4回以内
チオノックフロアブル	500倍	収穫7日前まで	5回以内
トレノックスフロアブル	500倍	収穫7日前まで	5回以内
デランフロアブル ^{注1)}	600～1,000倍	収穫7日前まで	4回以内
マスタピース水和剤 ^{注2)}	1,000～2,000倍	発病前～発病初期	—

注1) デランフロアブルは人によって皮膚にカブレを生じる場合があるので注意する。

注2) マスタピース水和剤は微生物殺菌剤であるため単用が望ましい。



図1 春型枝病斑（スプリングキャンカー）



図2 せん孔細菌病の発病葉及び発病果実

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。